

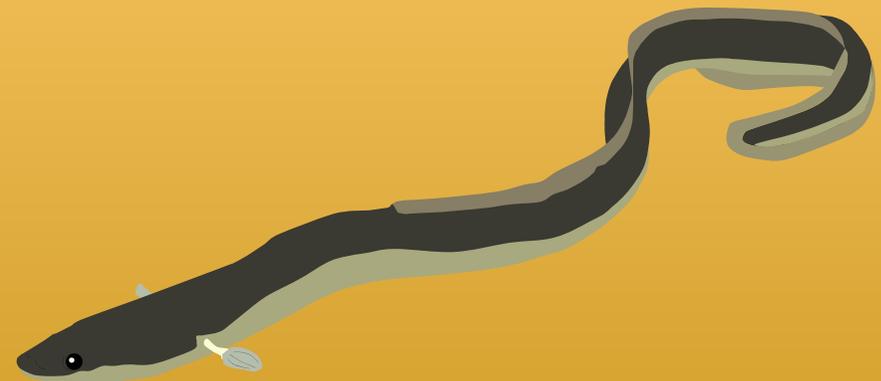
<メモ>



きみも

はかせ  
うなぎ博士になろう！！

せいたい べんきょう  
—うなぎの生態を勉強しよう！—



2008. 2. 23

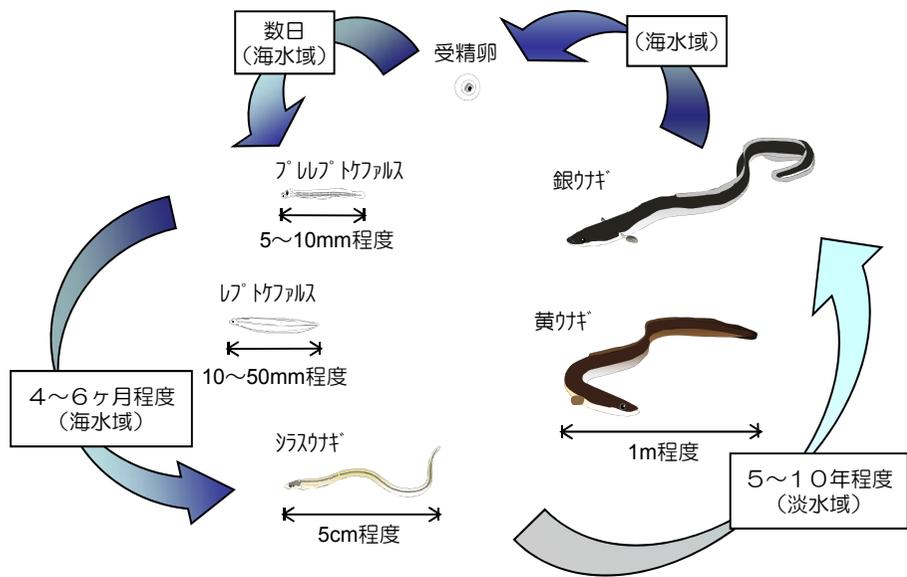
おなまえ

<2007 生き物の棲み処づくりプロジェクト>

国土交通省  
国土技術政策総合研究所 海洋環境研究室

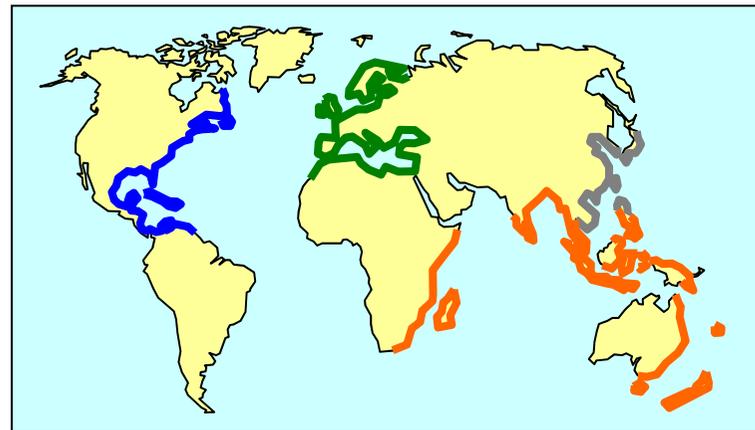
# ① うなぎの生態について<sup>1) 2)</sup>

ウナギは、マリアナ諸島海域で生まれると考えられています。卵からふ化したウナギは、数日でプレプトケファルスと呼ばれるかたちになり、その後、柳の葉のようなレプトケファルスに変わります。このかたちでは自ら泳ぐことが出来ないため、海を浮遊し海流などに流されて生活をします。レプトケファルスは、4~6ヶ月ほどでウナギの稚魚である体長5cmほどの体がやや透明なシラスウナギになり河口に入ります。その後シラスウナギは川を上るにつれ体が黄色ぽくなります(黄うなぎ)。川で5~10年ほど生活をして体がやや黒く銀色になると産卵のために川を下ります(銀うなぎ)。



# ② うなぎの分布<sup>1)</sup>

ウナギの種類は18種類ほど確認されており、ほとんどはインド洋・太平洋の熱帯地方に生息しています。北半球の温帯種は二ホンウナギ、アメリカウナギ、ヨーロッパウナギの3種類です。なぜか南米大陸には生息していないようです。



世界のウナギの分布図(うなぎを増やす<sup>1)</sup>より作成)

— : ヨーロッパウナギ — : アメリカウナギ — : 二ホンウナギ — : インド洋・太平洋熱帯種

# ③ うなぎの旅路<sup>1)</sup>

マリアナ諸島でふ化したウナギの幼生は北赤道海流や、偏西風の作用により、フィリピン付近まで運ばれます。そこから、黒潮に乗り替えて日本や中国を目指すこととなります。海流(黒潮)の流れにうまく乗らないと日本沿岸までたどりつけません。



ウナギの旅路ルート(うなぎを増やす<sup>1)</sup>より作成)

# ④ うなぎの豆知識!<sup>1)</sup> [土用の丑の日っていつなの?]

土用とは立春、立夏、立秋、立冬の前の18日間のことで、その中の丑の日(十二支の中の丑)を[土用の丑の日]と呼びます。次回は2008年7月24日です。ちなみに、幕末の学者 平賀源内がウナギ屋に頼まれて夏の土用の丑の日にウナギを食べるとよいと宣伝したことでこの習慣が出来たと言われております。

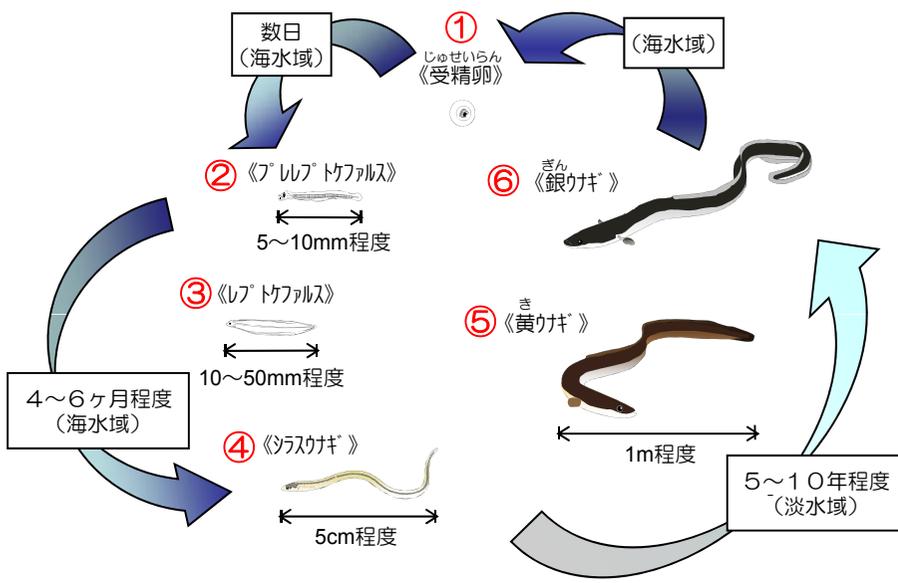
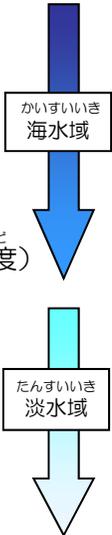
[引用文献] 1) 廣瀬慶二(2001) うなぎを増やす(社)日本水産学会 監修 成山堂書店  
2) フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』ウナギ

# ① うなぎの生活について

○ウナギの生態について絵をみて《 》の中を答えてみよう

- ① 《 受精卵 》
- ② 《 》 …… 孵化して数日 (5~10mm程度)
- ③ 《 》 …… 柳の葉のような形 (10~50mm程度)
- ④ 《 》 …… 孵化して4~6ヶ月程度の稚魚 (5cm程度)
- ⑤ 《 》 …… 体が黄色味を帯びてくる (1m程度)
- ⑥ 《 》 …… 5~10年ほど川でくらし、体が黒く銀色を帯びてくる

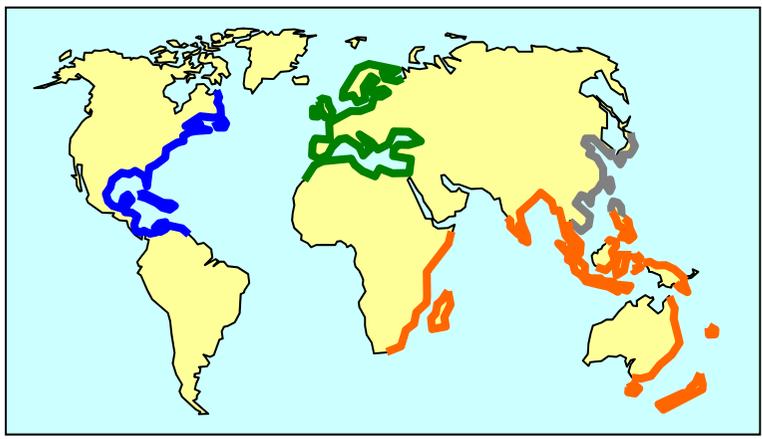
せいかつかんきょう (生活環境)



# ② うなぎの分布

○図をみてどのウナギがどこにすんでいるか線の色を書いてみよう

- ニホウナギ …… 色
- アメリカウナギ …… 色
- ヨーロッパウナギ …… 色
- インド洋・太平洋熱帯種 …… 色



世界のウナギの分布図 (うなぎを増やすより作成)

# ③ うなぎの旅路

○絵をみて【 】の中に国の名前を書いてみよう

